

## 第2章 熊野町の文化財の概要

### 第1節 熊野町の文化財調査

#### 1 文化財の調査及び出版物

本町における文化財の調査としては、熊野町・熊野町教育委員会が行ったものが3件、広島県教育委員会が行ったものが1件ある。

本町（教育委員会を含む）が行った調査は、特定の遺跡（道上遺跡・柳ノ本遺跡）、動植物及び筆に関する調査である。広島県教育委員会が行った中世城館遺跡の調査は、本町に所在する山城跡等を明確にするものである。

これらのほか、町史やその他歴史・文化財に関する出版物が38件あり、その作成過程では、それぞれに確認調査等が行われている（表2-1）。

表2-1 熊野町における文化財調査等に関する報告書・出版物 (1/2)

区分	No.	報告書名・出版物の名称	発行年・調査期間	発行・実施機関	対象の文化財・その他
文化財の調査	1	広島県中世城館遺跡総合調査報告書第2集	1994	広島県教育委員会	熊野町内の中世城館跡
	2	熊野筆に関する資料調査	令和4年(2022)1月4日～同年2月28日	熊野町総務部産業観光課	熊野筆に関する資料
	3	広島県安芸郡熊野町道上遺跡・柳ノ本遺跡試掘調査の概要	平成7年(1995)5月	熊野町教育委員会道上遺跡・柳ノ本遺跡試掘調査団	熊野町内の遺跡
	4	安芸熊野の自然誌 熊野町自然環境調査報告	平成8年(1996)3月1日	熊野町熊野町教育委員会安芸熊野の自然誌編集委員会	熊野町の動植物
町史	5	熊野町史 通史編	昭和62年(1987)10月1日	熊野町	
	6	熊野町史 生活誌・資料・年表編	平成元年(1989)3月1日	熊野町	熊野町におけることばの生活-方言、民族伝承歌謡、遺跡・遺物、古代・中世の資料、近世の資料、近・現代の資料、熊野筆関係資料
その他歴史・文化財に関する出版物	7	筆の町 熊野誌	昭和34年(1959)2月5日	熊野町商工会	熊野町郷土誌
	8	熊野町の墓標 その1 悼戦没者の霊	昭和56年(1981)9月	熊野町の墓標刊行会	熊野町の墓標
	9	熊野町の社寺めぐり	昭和57年(1982)	熊野町郷土史(社寺)研究会	熊野町の社寺
	10	熊野町の碑文	昭和58年(1983)5月	熊野町郷土史(碑文)研究会	熊野町の碑
	11	熊野の歴史(研究ノート・第1号)	昭和58年(1983)10月15日	熊野町	町史編さん資料
	12	熊野の歴史(研究ノート・第2号)	昭和59年(1984)9月10日	熊野町	町史編さん資料 熊野町の遺跡と遺物
	13	熊野町の海外渡航者	昭和59年(1984)9月	熊野町郷土史研究会	熊野町の海外渡航者
	14	熊野の歴史(研究ノート・第3号)	昭和60年(1985)3月	熊野町	町史編さん資料 熊野町大字新宮採集の中世遺物について
	15	熊野の歴史(研究ノート・第4号)	昭和61年(1986)7月1日	熊野町	町史編さん資料
	16	熊野の歴史(研究ノート・第5号)	昭和62年(1983)2月1日	熊野町	町史編さん資料
	17	ふるさと熊野町文化絵之図	平成4年(1992)	熊野町教育委員会	熊野町の文化財、文化
	18	熊野の自然	平成5年(1993)3月31日	熊野町自然調査団	熊野町の動植物

表2-1 熊野町における文化財調査等に関する報告書・出版物 (2/2)

区分	No.	報告書名・出版物の名称	発行年・調査期間	発行・実施機関	対象の文化財・その他
その他歴史・文化財に関する出版物	19	熊野町文化財のしおり 温故知新 ふるさとの文化財との出逢い	平成5年(1993)4月1日	熊野町教育委員会	熊野町の文化財
	20	芸州筆の歴史 ふるさと熊野 筆道資料の探訪	平成7年(1995)	熊野町郷土史研究会	熊野筆
	21	ふるさと熊野 親子で語る先生と学ぶ	平成13年(2001)1月	熊野町教育委員会	熊野町の文化財、文化
	22	生誕百年記念誌 郷土の童謡作曲家 坊田かずまの世界	平成14年(2002)3月1日	坊田かずまの会	郷土の童謡作曲家
	23	熊野町文化誌 郷	平成14年(2002)11月3日	熊野町教育委員会	熊野町の文化財、文化
	24	熊野町商工会75周年記念誌	平成15年(2003)2月28日	熊野町商工会	熊野町内筆に関わる碑
	25	住屋家文書 木屋由緒書	平成15年(2003)2月	熊野町郷土史研究会	住屋家文書
	26	絵図にみる平谷のすがた 江戸時代の平谷地区	平成17年(2005)5月	熊野町郷土史研究会	江戸時代の平谷地区
	27	ゆるぎ観音	平成18年(2006)7月	熊野町郷土史研究会	熊野町の民話・伝説
	28	熊野筆祭り小唄	平成20年(2008)4月	熊野町郷土史研究会	熊野町の小唄
	29	熊野筆まつり	平成23年(2011)5月	熊野町郷土史研究会	熊野筆まつり
	30	熊野よもやま話	平成24年(2012)4月	熊野町郷土史研究会	熊野町の民話・伝説
	31	宮島と熊野筆	平成25年(2013)3月	熊野町郷土史研究会	熊野筆
	32	ふるさと熊野	平成28年(2016)4月1日	熊野町教育委員会	地域教材
	33	佐太夫伝説	平成30年(2018)10月	熊野町	熊野町の民話・伝説
	34	ゆるぎ観音	平成30年(2018)10月	熊野町	熊野町の民話・伝説
	35	熊野の筆づくり	平成30年(2018)10月	熊野町	熊野筆
	36	ふるさと熊野探訪	令和2年(2020)8月	熊野町郷土史研究会	熊野町の文化財、文化
	37	自然からの贈りもの	令和4年(2022)3月	くまの自然観察会 富沢由美子	熊野町の山、樹木(リスト)、動植物(写真・文)、植物画等
	38	榊山神社の碑誌	-	熊野町郷土史研究会	榊山神社の碑
	39	熊郷研会報	-	熊野町郷土史研究会	
	40	熊野町の昔話シリーズその1 今よみがえる熊野町の伝説 佐田虫	-	熊野町教育委員会	熊野町の民話・伝説
41	熊野町の昔話シリーズその2・3 今よみがえる熊野町の伝説 涙岩・夜泣き石	-	熊野町教育委員会	熊野町の民話・伝説	
42	文化財のしおり	-	熊野町教育委員会 熊野町郷土史研究会	熊野町の文化財	

## 2 文化財の把握

### (1) ワークショップによる文化財の把握調査

本町における文化財の把握を目的とした取組は、令和4年(2022)11月7日(月)に開催した「地域の宝(文化財)・再発見ワークショップ」(参加者:住民11人)であり、80を超える有形・無形の未指定文化財、及び多数の文化財の保存・活用に関する意見が示された。(内容は資料編に掲載)

また、町史・出版物等に記載されたもので存在が確認できているものについて、本計画に取り上げるとともに、文化財の6類型及び埋蔵文化財以外のものとして、地名を取り上げている。



P2-1 ワークショップ作業風景(2つの班で協議・作業)



P2-2 ワークショップ作業成果



## (2) 未指定文化財の調査状況

本町における未指定文化財の把握件数は、現段階（令和6年3月31日現在）において690件となっている（本章第2節3「(1) 未指定文化財の把握状況」を参照）。

これまでの文化財の調査、未指定文化財の現時点での把握数やその類型を踏まえつつ、把握調査の状況及び課題（未指定文化財）を整理すると、次の表のようになる。

表 2-2 熊野町の未指定文化財の調査状況の整理と課題の検討

類型		調査状況	把握調査の状況と課題	
有形文化財	建造物	○	・茅葺き民家、伝統的な筆屋の建造物（建物・庭園等）等は、ほぼ把握できている（建築物関係）。 ・宝篋印塔、五輪塔等の石造物の把握は一部である。	
	美術工芸品	絵画	△	・一部しか把握できていない。
		彫刻	△	・一部しか把握できていない。
		工芸品	△	・筆の事業所に残されている古い筆など以外は、把握できていない。
		書跡・典籍	△	・把握できていない。
		古文書	△	・土蔵等で保管されている古文書等が多数存在する可能性があるが、一部しか把握できていない。
		考古資料	△	・一部しか把握できていない。
		歴史資料	△	・一部しか把握できていない。
無形文化財		△	・筆以外は把握できていない。	
民俗文化財	有形の民俗文化財	△	・筆の里工房や熊野町郷土館で筆に関する製品や道具等は多数、収集しているが、文化財としての把握・整理はできていない。 ・町内には、筆以外の有形の民俗文化財も多数存在すると考えられるが、把握調査は行っていない。	
	無形の民俗文化財	△	・無形の民俗文化財の把握は、一部にとどまっている。 ・無形の民俗文化財としての把握調査は行っていない。	
記念物	遺跡 ※埋蔵文化財を含む	◎	・広島県遺跡マップで把握整理。 ・今後、開発や公共工事等で把握される可能性あり。	
	名勝地	△	・山中に所在する滝を把握しているが、把握調査は行っていない。	
	動物	△	・『安芸熊野の自然誌』に関わる調査から年月が経っており、現状における動物の生息（把握）調査は行っていない。	
	植物	○	・熊野町に自生又は野生化している植物の一部を把握している。 ・『安芸熊野の自然誌』に関わる調査から年月が経っており、現在の状況を確認できていないものが多数ある。	
	地質鉱物	△	・地質鉱物の把握調査は行っていない。	
文化的景観		△	・生業と自然・田園景観によって形成されている文化的景観をリストアップできる可能性あり。 ・文化的景観としての把握調査は行っていない。	
伝統的建造物群		◎	・熊野町郷土館や筆づくりに関する伝統的建造物（建物）が複数ある中溝通り。寺院も所在する。 ・上記以外には伝統的建造物群は所在しない。	
文化財の保存技術		△	・筆づくりに関わる道具の製作・修理の伝統的技術・技能の存在の可能性はあるが、把握調査は行っていない。 ・筆以外についても把握調査は行っていない。	
その他		◎	・伝承・物語のある歴史的な地名（由来のある地名）が継承されており、既往の刊行物から把握している。 ・その他の歴史的な地名も、町としてリスト、地図で把握している。	

<調査状況の凡例>

◎：把握調査は（ほぼ）完了している    ○：把握調査は（ある程度）行っている

△：把握調査は一部又は未着手（把握調査は十分でない）

## 第2節 熊野町の文化財の概要

### 1 指定等文化財

#### (1) 指定等文化財の概要

本町の指定文化財としては、国指定及び県指定文化財はなく、町指定文化財が14件、国登録文化財が2件である。

町指定文化財の分類としては、動物・植物・地質鉱物が6件で最も多く、次いで有形文化財（美術工芸品）が4件、有形文化財（建造物）が2件、無形の民俗文化財と遺跡がそれぞれ1件である。

国登録文化財の2件は、いずれも登録有形文化財（建造物）である。

表 2-3 熊野町の指定等文化財の件数

※令和6年(2024)5月1日現在

類型		国指定 ・選定	県指定	町指定	国登録	合計	
有形文化財	建造物	0	0	2	2	4	
	美術工芸品	絵画	0	0	0	0	0
		彫刻	0	0	1	0	1
		工芸品	0	0	2	0	2
		書跡・典籍	0	0	0	0	0
		古文書	0	0	1	0	1
		考古資料	0	0	0	0	0
		歴史資料	0	0	0	0	0
無形文化財		0	0	0	0	0	
民俗文化財	有形の民俗文化財	0	0	0	0	0	
	無形の民俗文化財	0	0	1	0	1	
記念物	遺跡	0	0	1	0	1	
	名勝地	0	0	0	0	0	
	動物・植物・地質鉱物	0	0	6	0	6	
文化的景観		0	—	—	—	0	
伝統的建造物群		0	—	—	—	0	
合 計		0	0	14	2	16	

※「—」は制度がないことを示す。

表 2-4 熊野町の指定文化財（町指定）

令和 6 年(2024) 5 月 1 日現在

種類	種別	指定 年月日	名称	所在地	備考	
有形文化財	建造物	H4. 8. 20	榊山神社社殿	中溝区八幡山		
有形文化財	建造物	H12. 2. 1	城堀不動堂	城之堀区不動原		
有形文化財	美術工芸品	彫刻	S62. 10. 1	狛犬	新宮区榊森神社内	寄木造り一対
有形文化財	美術工芸品	工芸品	H6. 8. 1	榊山神社石玉垣	中溝区八幡山	
有形文化財	美術工芸品	工芸品	H7. 10. 1	鬼瓦	中溝区宮ノ前	
有形文化財	美術工芸品	古文書	S62. 10. 1	安芸国安南郡熊野村検地帳	広島県立文書館	
民俗文化財	無形の民俗文化財	H10. 12. 1	榊山神社神楽踊り			
記念物	遺跡	H1. 12. 1	ゆるぎ岩、観音堂、磨崖仏 を含む一帯	中溝区観音平		
記念物	植物	S55. 5. 1	光教坊の乳下りイチョウ	中溝区光教坊境内		
記念物	植物	S55. 5. 1	光教坊のモッコク	中溝区光教坊境内		
記念物	植物	S55. 5. 1	益永邸のヒイラギ	個人		
記念物	植物	S55. 5. 1	岸田八幡宮のタブ	呉地区岸田八幡宮 境内		
記念物	植物	S55. 5. 1	佐々木邸のエノキ	個人		
記念物	植物	H4. 10. 5	呉地ダム湿原群	呉地ダム周辺		

表 2-5 国登録有形文化財

令和 6 年(2024) 5 月 1 日現在

種類	種別	登録 年月日	名称	所在地	備考
有形文化財	建造物	R 2. 4. 3	榊森神社本殿	新宮区	
有形文化財	建造物	R 2. 4. 3	榊森神社拝殿	新宮区	

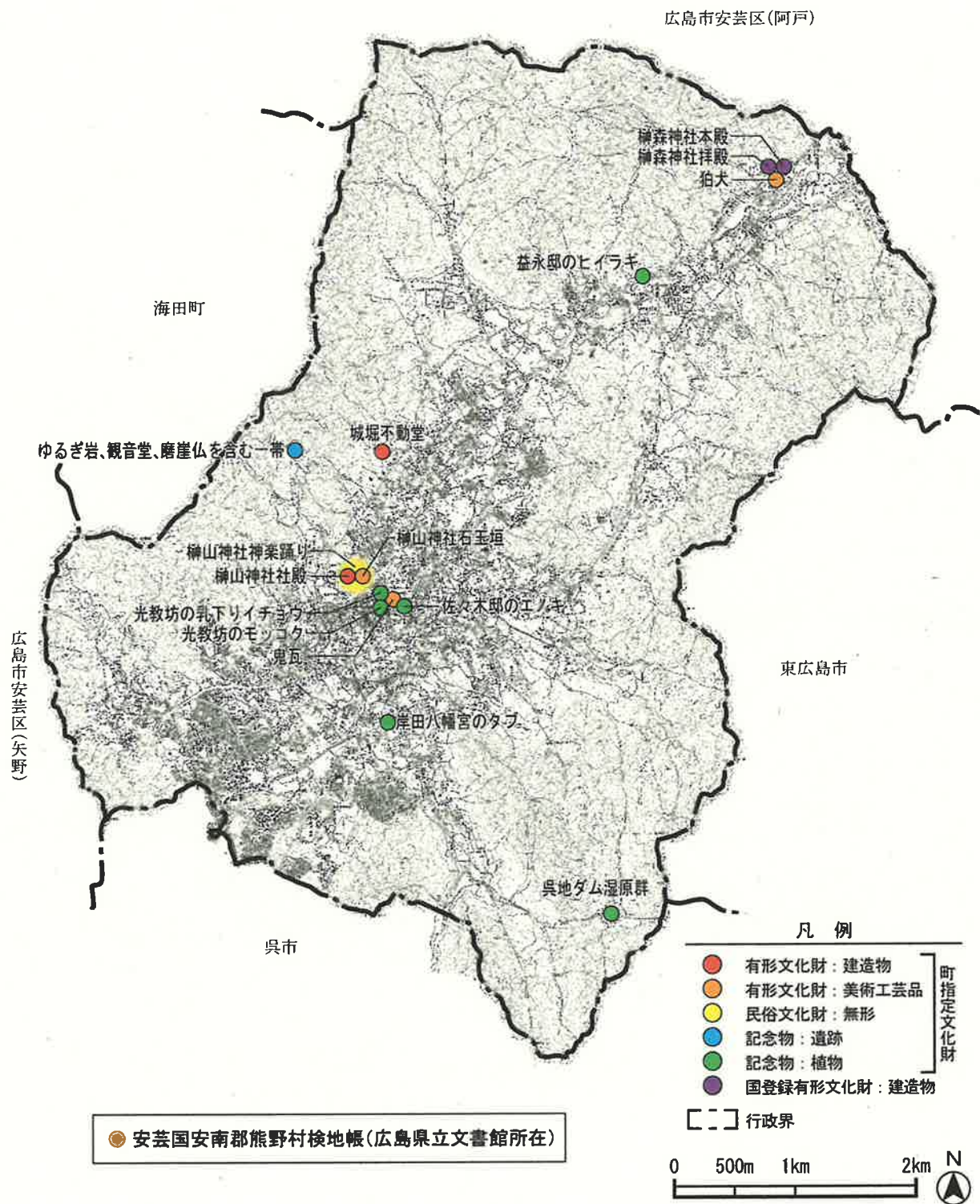


図 2-2 熊野町の指定等文化財の位置 (絵画・彫刻・工芸品・古文書等を除く)

## (2) 指定等文化財の類型別の内容

指定等文化財について、文化財保護法に規定されている6類型(第2条)と埋蔵文化財(第92条)及び文化財の保存技術(第147条)ごとに内容を整理する。

### ア 有形文化財

#### 1) 建造物

指定されている有形文化財の建造物は、「榊山神社社殿」、「城堀不動堂」の町指定が2件ある。

「榊山神社社殿」は、承平3年(933)に宇佐八幡宮から勧請されたと伝えられる古社であり、社殿の造りや規模の大きさは、近世の社寺建築を代表する一つとなっている。

「城堀不動堂」の建立年代は、棟札から文化3年(1806)と分かり、建築様式や部材の経年もこれに相応しい。

登録有形文化財は、「榊森神社本殿」、「榊森神社拝殿」の2件がある。本殿は、石段を登った境内地の北西に南面して建ち、三間社流造銅板葺で背面を除く三方に高欄付の縁を廻す。拝殿は、本殿の南に渡殿及び幣殿を介し、南面して建ち、木造平屋建、正面入母屋造棧瓦葺で、背面の渡殿及び幣殿と一体に屋根を葺く。



P2-3 榊山神社社殿

#### 2) 美術工芸品

指定されている有形文化財の美術工芸品は町指定が4件あり、彫刻、工芸品、古文書である。

「狛犬」は、榊森神社に伝わる木彫り寄せ木造りの狛犬で、室町時代の作と伝えられている。

「榊山神社石玉垣」は、安政6年(1859)につくられたもので、その当時、筆の商売で豪商が出てきた時期であった。玉垣の石柱に築造年代が刻銘されているのは珍しく貴重である。

「鬼瓦」は、<sup>こうきょうぼう</sup>光教坊大修理の際に、本堂の屋根から降ろされたもので、170年ほど前につくられた「江波瓦」である。



P2-4 狛犬(榊森神社)

「安芸国安南郡熊野村検地帳」は、慶長6年(1601)11月に広島藩主福島正則により行われた際の検地帳であり、保存状態が良く近世歴史研究のための貴重な資料とされている。

### イ 無形文化財

本町には指定されている無形文化財はない。

## ウ 民俗文化財

### 1) 有形の民俗文化財

本町には指定されている有形の民俗文化財はない。

### 2) 無形の民俗文化財

指定されている無形の民俗文化財は、町指定が1件ある。

「榊山神社神楽踊り」は、榊山神社所蔵の年中事物目録に「弘治二年丙辰八月朔日祈願に付踊申候」とある。当時、農民の宝ともいべき牛が多く死に、田畑を荒らす害虫が著しかったため撲滅の祈願祭を行い、その祈願ほどきとして奉納したと伝えられる。



P2-5 榊山神社神楽踊り。大正末期頃（写真提供：坊田かずまの会 会員）

## エ 記念物

### 1) 遺跡（史跡）

指定されている遺跡（史跡）は町指定が1件ある。

「ゆるぎ岩、観音堂、磨崖仏を含む一帯」のうち、ゆるぎ岩は高さ約2.1m、長さ約1.5mの大岩で、善人がゆすると動くと伝えられ、古くから村民の信仰を集め親しまれている。観音堂は、慶応年間の建立で昭和36年(1961)に修復されている。広大な境内には明治から大正初期にかけて刻まれた35体の磨崖仏が点在している。



P2-6 ゆるぎ岩

### 2) 名勝地（名勝）

本町には指定されている名勝地（名勝）はない。

### 3) 動物・植物・地質鉱物（天然記念物）

指定されている動物・植物・地質鉱物（天然記念物）は町指定が6件ある。

このうち、光教坊の「乳下りイチョウ」は、いくつにも枝分かれした幹が天を仰ぐように伸びており、幹からはいくつもの乳柱（乳房状の突起）が垂れている。

「呉地ダム湿原群」は、周辺をアカマツ林で囲まれた穏やかな傾斜の谷で湿原が形成されやすい地形となっており、湿原特有の植物や生物が多く見られていた。しかし、平成30年(2018)7月豪雨で土砂がなだれ込み、現状では湿地特有のサギソウやミミカキグサ類が数本見られる程度である。

## オ 文化的景観

本町には、重要文化的景観として選定されている文化的景観はない。

## カ 伝統的建造物群

本町には、重要伝統的建造物群保存地区として選定されている伝統的建造物群はない。

## キ 文化財の保存技術

本町においては、文化財の保存に必要な材料や用具の生産製作、修理・修復の技術等に

関して、国により選定されている文化財の保存技術は存在しない。

## 2 埋蔵文化財

埋蔵文化財については、広島県教育委員会による埋蔵文化財包蔵地一覧表及び遺跡地図がある。

これらにより本町で確認されている埋蔵文化財（遺跡）は、広島県遺跡地図（広島県教育委員会）では54件となり、これらを種別・時代別で整理すると次のようになる。

### <種別>

埋蔵文化財を種別で見ると、包含地が40件（全体の74.1%）と最も多く、次いで城跡（山城跡）が9件（館跡を加えた城館跡は10件）、墓3件、集落跡1件となる。

### <時代別>

埋蔵文化財を時代別で見ると、中世が24件と最も多く、次いで弥生、縄文、旧石器時代となる。

なお、弥生、縄文、旧石器時代のものの一部は、その後（中世まで）にも続いている遺跡も存在する。

表 2-6 種別・地域別埋蔵文化財 (件)

種別	地区										計
	呉地	出来	中溝	萩原	城之堀	初神	新宮	川角	平谷	東山	
城跡				3	2		1	1	1	1	9
館跡									1		1
集落跡				1							1
墓							3				3
包含地	7	5	5	9	3	2	4	3	2		40
計	7	5	5	13	5	2	8	4	4	1	54

※空白の欄は、現時点で把握されていないことを示す（下表も同様）。

表 2-7 地域別・時代別埋蔵文化財 (件)

区分	旧石器 (~縄文、~中世 もあり)	縄文 (~弥生、~古墳、 ~中世もあり)	弥生 (~古墳、~中世 もあり)	中世 (左記の時代重複を 含めず)	計
呉地	2	2	2	1	7
出来		1	4		5
中溝		1	4		5
萩原		5	2	6	13
城之堀				5	5
初神		1	1		2
新宮	1			7	8
川角			2	2	4
平谷		2		2	4
東山				1	1
計	3	12	15	24	54

表 2-8 熊野町の埋蔵文化財（遺跡）

(1/2)

番号	名称	種別	時代	所在地	概要
1	海上側遺跡	包含地	中世	新宮	土師質土器片
2	海上側古墓	墓	中世	新宮	五輪塔、蔵骨器(小壺)
3	宮林第1号古墓	墓	中世	新宮	2.5m×5.6mの石囲み墓壇
4	宮林第2号古墓	墓	中世	新宮	3.6m×6mの石囲み墓壇、五輪塔集積
5	榊森城跡	城跡	中世	新宮	郭、堀切、土塁、石垣
6	富田地遺跡	包含地	中世	新宮	土師質土器片
7	下深原遺跡	包含地	中世	新宮	土師質土器片
8	東深原遺跡	包含地	旧石器～縄文	新宮	局部磨製石斧2、磨製石斧1、凹石1、磨石1
9	岡遺跡	包含地	弥生～中世	初神	古式土師器(壺)、須恵器片、黒曜石、安山岩剥片
10	畦地遺跡	包含地	縄文～中世	初神	有舌尖頭器、石鏃、弥生土器片、土師質土器片、安山岩剥片
11	山本地遺跡	包含地	中世	城之堀	土師質土器片
12	稻荷谷遺跡	包含地	中世	城之堀	土師質土器片
13	土岐城跡	城跡	中世	萩原	郭、堀切、土橋、櫓台、井戸、土師質土器片
14	狐池遺跡	包含地	中世	城之堀	土師質土器片(壺)
15	堀之城跡	城跡	中世	城之堀	郭、堀切、土塁、青磁片、亀山焼片
16	里地遺跡	包含地	中世	萩原	土師質土器片
17	狐城遺跡	包含地	弥生	萩原	弥生後期土器片
18	狐ヶ城跡	城跡	中世	萩原	郭、堀切
19	四貫分城跡	城跡	中世	萩原	郭、中世土器片
20	白石遺跡	包含地	弥生～古墳	中溝	黒曜石、安山岩剥片、石鏃、石錐、弥生土器片、土師器片
21	坂面大池遺跡	包含地	縄文～中世	中溝	石鏃、安山岩剥片、土錐、弥生土器片、土師質土器片
22	大歳遺跡	包含地	縄文・古墳	出来	石鏃、剥片、須恵器片、土師器片
23	嵩山城跡	城跡	中世	城之堀、海田町	郭、堀切
24	山代1号遺跡	包含地	中世	萩原	土師質土器
25	山代2号遺跡	包含地	弥生～中世	萩原	剥片、土師質土器
26	重地1号遺跡	包含地	弥生～中世	中溝	剥片、弥生土器片、須恵器片、中世土器片
27	重地2号遺跡	包含地	弥生～中世	中溝	石鏃、剥片、弥生土器片、須恵器片、中世土器片
28	重地3号遺跡	包含地	弥生～中世	中溝	弥生土器片、中世土器片
29	大原1号遺跡	包含地	縄文～中世	萩原	石鏃、剥片、弥生土器片、中世土器片
30	大原2号遺跡	包含地	縄文～弥生	萩原	安山岩剥片、弥生土器片、縄文土器片
31	道上1号遺跡	包含地	縄文～中世	萩原	安山岩剥片、弥生土器片、土師質土器片
32	道上2号遺跡	包含地	縄文～中世	萩原	安山岩剥片、弥生土器片、土師質土器片
33	道上3号遺跡	包含地	縄文～中世	萩原	安山岩剥片、弥生土器片、土師質土器片
34	大水南地遺跡	包含地	弥生～古墳	出来	弥生中期土器片、土師器
35	中筋1号遺跡	包含地	弥生・中世	出来	弥生後期土器片、土師質土器片
36	中筋2号遺跡	包含地	弥生・中世	出来	弥生後期土器片、土師質土器片
37	八幡風呂遺跡	包含地	弥生・中世	呉地	弥生後期土器片、土師質土器片
38	台遺跡	包含地	中世	呉地	土師質土器片、亀山焼片
39	人夫台遺跡	包含地	縄文?・中世	呉地	石鏃、土師質土器片
40	長尾遺跡	包含地	縄文	呉地	石鏃、剥片
41	上明台遺跡	包含地	弥生～中世	呉地	石鏃、剥片、弥生土器片、土師質土器片
42	木綿地遺跡	包含地	弥生～中世	川角	黒曜石剥片、亀山焼片、中世土器片
43	地蔵の前遺跡	包含地	弥生～中世	出来	石鏃、剥片、弥生土器片、中世土器片
44	上の山遺跡	包含地	弥生～中世	川角	石鏃、剥片、弥生土器片、中世土器片
45	貴船遺跡	包含地	中世	川角	土師質土器片

※上記表の番号と次頁の地図上（位置図）の番号は対応

表 2-8 熊野町の埋蔵文化財（遺跡）

(2/2)

番号	名称	種別	時代	所在地	概要
46	才の神遺跡	包含地	旧石器・中世	呉地	有舌尖頭器、青磁片、土師質土器
47	ハグイ原遺跡	包含地	旧石器	呉地	有舌尖頭器
48	坊主山城跡	城跡	中世	東山	
49	的場城跡	城跡	中世	平谷	
50	九ノ通遺跡	包含地	縄文	平谷	石鏃、石匙、剥片
51	柳ノ本遺跡	包含地	縄文	平谷	石鏃、石錐、剥片
52	清水山遺跡	館跡	中世	平谷	土塁
53	貴船城跡	城跡	中世	川角	
54	二反田前地遺跡	集落跡	中世	前地	

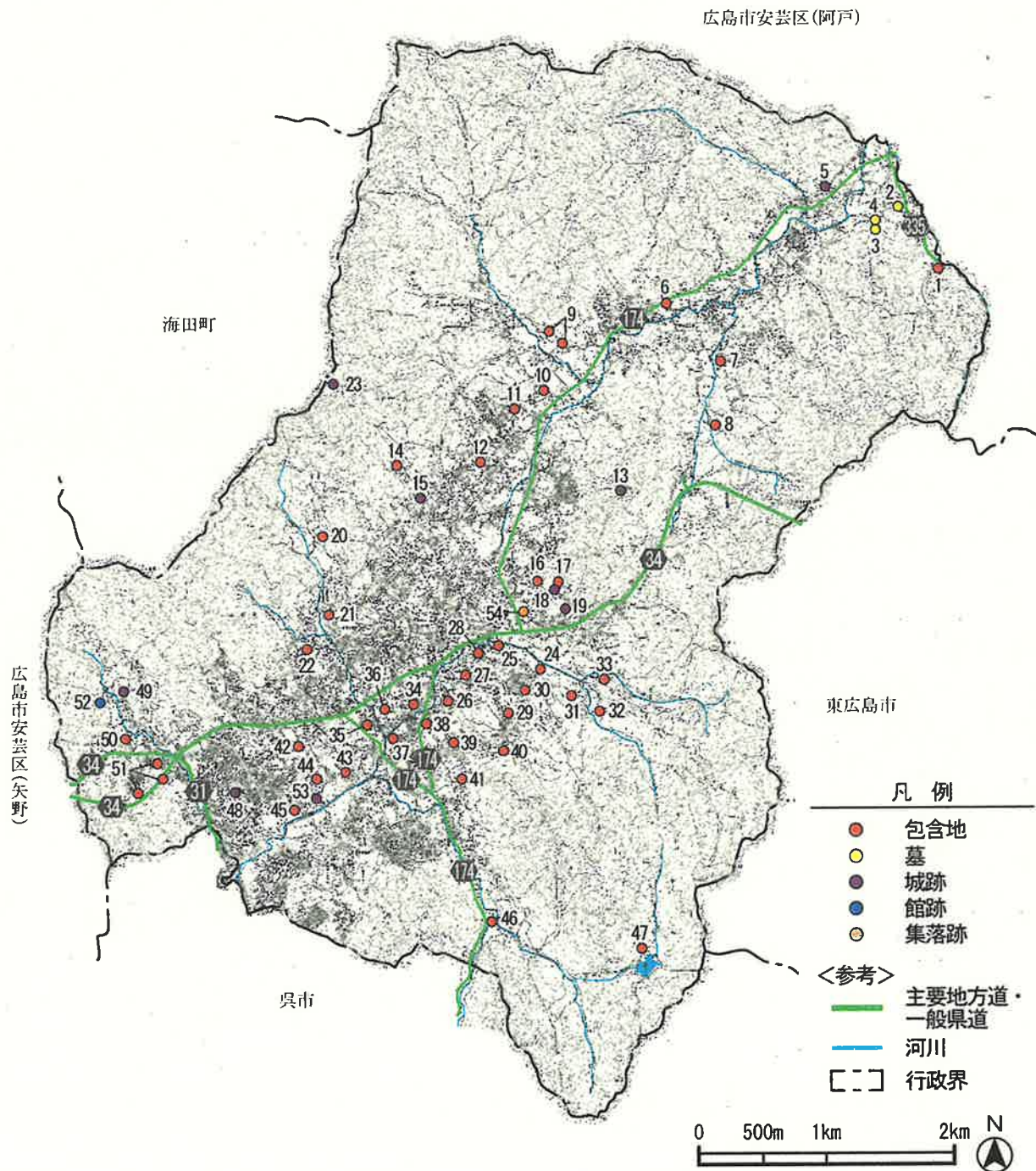


図 2-3 熊野町の埋蔵文化財（遺跡）の位置

### 3 未指定文化財

#### (1) 未指定文化財の把握状況

未指定文化財についての把握調査（悉皆調査）は行っていないが、前述のように既往の調査・出版物及びワークショップ等から、全体の一部ではあるが把握することができている。

令和5年(2023)12月1日現在、690件の未指定文化財を把握しており、その内訳は下表のとおりである。

この表から分かるように、建造物のうちの建築物、記念物のうちの植物は相当数、把握できているといえる。前者は茅葺き民家を調査している個人（住民）、後者は「くまの自然観察会」等によるところが大きい。

表 2-9 未指定文化財の把握状況

※令和6年(2023)3月31日現在

類 型		地 区		呉地	出来庭	中溝	萩原	城之堀	初神	新宮	川角	平谷	熊野団地	全町・他	複数地区・他	合 計		
		茅葺き民家 (かぶせ屋 根：内数)	上記以外															
有形文化財	建造物	茅葺き民家 (かぶせ屋 根：内数)	19 (18)	24 (23)	12 (7)	56 (54)	24 (16)	20 (17)	37 (34)	7 (6)	9 (8)						208 (183)	
		上記以外	7	2	8	8	7	3	5	2	5				2		49	
		その他			1	1			3									5
	美術工芸品	絵画			1				1									2
		彫刻			3					2								5
		工芸品														1		1
		書籍・典籍																
		古文書										1						1
		考古資料				1												1
		歴史資料			3	1	1					1				5		11
無形文化財															1		1	
民俗文化財	有形の民俗文化財		2		2		2	4	1		1				4		16	
	無形の民俗文化財								1						3		4	
記念物	遺跡		2		2	7	3	6	2		5				5		32	
	名勝地		1					1									2	
	動物														26		26	
	植物														297		297	
	地質鉱物		1		1	1	2		2	1							8	
文化的景観											1						1	
伝統的建造物群					1												1	
その他（由来のある地名等）			2	1	2	1	3		1						9		19	
合 計			35	27	37	75	42	34	55	10	23			352		690		

※空白の欄は、現時点で把握できていないことを示す。

## (2) 未指定文化財の概要

把握している未指定文化財の幾つかを取り上げ、概要を整理する。

### ア 有形文化財

#### 1) 建造物

##### <建築物>

##### ■茅葺き民家

本町には茅葺き屋根の建物(茅葺き民家)が、かぶせ屋根(茅葺きの屋根を金属板等で覆ったもの)を含めると、令和5年(2023)12月1日現在208棟残されている。これらのうち実際に茅葺き屋根(金属板等がなく茅が露出)となっている民家は25棟存在し、広島県下では東広島市に次いで多い。

本町の茅葺き民家は、寄棟又は入母屋で造られており、それらの中には箱棟を載せたものもある。



P2-7 茅葺き民家(入母屋)

##### ■その他建築物

##### 寺社

本町の中央部には光教坊と西光寺、北東側には毘沙門堂、南及南西側には姫白神社(観音)や明神社(厳島神社)等があり、その数は祠を含めると88件(主な寺社は31件)に及ぶ。

これらの多くは盆地や山麓部付近にあるが、町域西側の城山には空不動、南東側の石嶽<sup>かけ</sup>には石嶽山<sup>かけかんのん</sup>観音、その他山中にも小さな神社が所在する。

##### 酒蔵、古民家、社倉、工場等

本町では市街化が進み、新しい住宅や事業所等が増えてきたが、前述の筆屋や寺社の建物以外にも、伝統的建造物(建物)が残されている。

それらは酒蔵、古民家、社倉、歴史のある工場(作業所)があげられる。社倉は、飢饉に備えて穀物を蓄えた倉であり、平谷地区に1棟残されている。



P2-8 石嶽山観音

##### <その他建造物>

本町には、建設後50年以上経過している橋、及び古くからの名称を継承している橋(馬橋)等、土木遺産がある。

また、古くから存在する五輪塔は3件把握している。これらのうち、新宮地区に所在する五輪塔は、複数が集積しており、その付近から出土した古備前焼の小壺から、室町時代後期の築造と推定される。



P2-9 社倉

## 2) 美術工芸品

## ■絵画

絵画としては、本町の複数の神社にある絵馬や絵の施されている額を把握している。額の中には横が1間（約1.8m）を超え、彩色が鮮明なものもある。

## ■彫刻

彫刻としては、本町の寺院にある木彫りの像（仏像）を把握している。

また、神社の参道等に据えられた狛犬は、参拝の風情を高めている。

## ■工芸品

工芸品としては、本町のまちづくりや産業を象徴する熊野筆を取り上げている。筆の里工房や熊野町郷土館等では、熊野筆の展示を行っている。

また、熊野筆会館や筆の事業所等においても古い熊野筆が保管されている。



P2-10 かつての筆問屋に残されている各種の筆

## ■古文書

古文書としては、川角村、平谷村、熊野村の合併の資料、明治時代と推定される小学校の答案用紙等を把握している。

また、これらが所在する個人宅では、未解読ではあるが、近世以前と推定される古文書を複数確認している。

## ■歴史資料

歴史資料のうち災害の記録に関しては、『熊野町史』や新聞記事等を取り上げている。

また、本町出身の童謡作曲家・坊田かずまに関する資料を取り上げている。かずまは、童謡等 99 曲を残し、全国各地を尋ねてわらべ歌、子守歌等を譜に起こした。

坊田かずまに関する歴史資料としては、楽譜集『やさしく唄える国民合唱集』（1941年発行）、『日本子守唄集』（1938年発行）、古写真等がある。『やさしく唄える国民合唱集』は、日本で昔から歌われてきた童謡や民謡坊田かずまが十幾年かけて採譜蒐集した合唱歌曲集、『日本子守唄集』は、日本固有の音律からなる子守歌採譜し、編曲した歌集である。

## ■考古資料

考古資料としては、発掘調査で出土した石器（やじり等）や土器等の一部を把握しており、熊野町郷土館で保管・展示している。

こうした遺物は、それが出土した遺跡と併せて、旧石器時代から人々が暮らしていたことを裏付けている。



P2-11 明治時代の平谷小学校の史料



P2-12 坊田かずま（提供：坊田かずまの会 会員）

## イ 無形文化財

熊野筆は伝統的工芸品であり、その伝統的な製法は無形文化財の範疇ともいえ、伝統工芸士に代表されるように、卓越した製造技術又は技法に裏打ちされている。

## ウ 民俗文化財

### 1) 有形の民俗文化財

有形の民俗文化財としては、古くから存在する亀趺きふたや古墓（墓石）、墓碑といった石造物を把握している。

亀趺は、亀の形に刻んだ碑の台座のことで、「ドンガメの墓」と呼ばれている。亀趺は中国後漢時代の発祥といわれ、全国では約130基が確認され、本町には3基が存在する。呉地地区にある亀趺には、亀が海を泳いでいるような波模様が施されている。

呉地の亀趺墓は、本町の筆づくりの歴史に関係深い「孫井田庄三郎」のもので、同じ墓地には「孫井田庄次郎」の墓もある。

また、音丸常太の墓碑は、先駆者らしく筆を象かたどったものとなっている。

さらに、筆の里工房や熊野町郷土館などには、昔使用していた製筆用具などが保管（展示）されている。

加えて、石工集団が使用していた道具なども残されている。

### 2) 無形の民俗文化財

無形の民俗文化財としては、榊山神社をメイン会場とする筆まつりを取り上げている。

筆まつりでは、「筆まつり唄」に合わせた振り付けの踊りも披露される。

全町的な行事・風習として「とんど」があり、榊森神社では湯立ちの神事が行われている。

また、山の幸と海の幸を組み合わせで作られた煮物である「はっすん」が継承されている。

熊野筆の製造技術は無形の民俗文化財と位置づけられるが、人々の暮らしを支えた生業としての面もある。



P2-13 亀趺。墓石（孫井田庄三郎）の台座となっている。



P2-14 孫井田庄次郎の墓石



P2-15 筆まつり「大作席書」。榊山神社

## エ 記念物

### 1) 遺跡

#### ■城館跡

遺跡のうち城館跡として、山城跡（城跡）が9件、館跡が1件を把握している。

これらの城主、築城時期などは明確ではないが、15世紀以降の大内氏の安芸国東西条<sup>※1</sup>支配体制の確立とともに築かれたものと推測される。

戦国時代には、これらの山城においては数々の攻防戦が行われた。

#### ■その他の遺跡

専門的な調査は行われていないが、平谷古墳等が確認されているとともに、その他の埋蔵文化財（遺跡）が多数所在する（第2章第2節「2 埋蔵文化財」を参照）。

また、本町の地形や天候との関わりの中で、農業用水を確保するため多数の溜池が築造されており、それらの多くが現在も機能している。

さらに、石積みの堰堤、石垣・石段等の石造物とともに、台場跡、冷却用水槽（大砲等を連続して発射した場合に加熱した砲身を水で冷やすための設備）等の戦争遺跡も、幾つかの場所で確認することができる。

加えて、周辺地域との交流・交易を支えた往還（熊野往還等）や古くからの峠、地域内をつないだ古道（三尺道）等も残されている。

### 2) 名勝地

名勝地としては、町域の北西部に位置する洞所山、南東部で確認されている滝を取り上げている。

洞所山については、山頂付近の樹木の間から、本町の市街地や周囲の山々などが箱庭のように眺望できるとともに、広島市や海田町方面も望むことができる。洞所山以外の周囲を囲む山々も、地形として絶好の眺望条件を備えており、今後、現地を確認し名勝地に追加することが考えられる。

滝については、呉地川上流部の呉地ダム（呉地大池）堰堤西側（下流部）の山中に位置する。



P2-16 土岐城跡



P2-17 古道（三尺道）、西光寺付近  
（提供：梶矢祥弘氏）

#### ※1 安芸国東西条

室町・戦国時代（15～16世紀）には、西条盆地と黒瀬川の下流域一帯は、安芸国東西条と呼ばれ、当時、瀬戸内海地域西半に大きな勢力をもっていた防長の大名大内氏の直轄領であった。鏡山城（東広島市鏡山）は、この一帯を支配する拠点となっていた。

### 3) 動植物

本町では、市街地や集落、その周辺の山々等、身近に多種多様な動植物を見ることができ、四季折々に自然を体感できる。代表的なものの一部を紹介すると、次のようになる。

動物については、春はウグイス、夏はゴマダラカミキリ、秋はクスサン、冬はフクラスズメ（冬は成虫で越冬）等をあげることができる。

植物については、春はヤマザクラ、夏はウワミズザクラ、秋はリンドウ、冬はウラジロ等をあげることができる。



P2-18 自然観察会

### 4) 地質鉱物

#### ■名水・湧水、分水界

本町を囲む山地部では、4か所で名水（キララの水、空不動の水、ゆるぎ観音の水、石嶽観音の水）が湧き出ている。

また、本町は瀬野川水系の熊野川、呉湾に注ぐ二河川が流れ、市街地内に分水界がある特徴的な地形となっている。

#### ■岩石（涙岩等）

本町（呉地地区）と呉市との境界付近には、「涙岩」と呼ばれる花崗岩の巨岩があり、岩の上部から流れる水と風化作用で縞模様が形づくられている。



P2-19 ゆるぎ観音と名水



P2-20 涙岩

### オ 文化的景観

本町の文化的景観としては、平谷稲架風景をあげることができる。

一昔前は、刈り取った稲の束をハデ（木材や竹で組み立てたもの）に干した風景は一般的であったが、多くがコンバインで刈り取り脱穀するため、重労働の稲掛けはごく一部で行われる程度となってきた。

平谷の稲架けは、秋本番の到来を告げる風物詩であり、棚田等の背景と併せて、遙か昔から行われてきた本町の農耕文化、原風景を伝えている。

## カ 伝統的建造物群

本町の中溝地区（中溝通り）には、明治期から昭和前期にかけて建築された筆屋の建物（町家）とともに、熊野町郷土館や寺院等も立地している。

中溝通りは、古くからの町割を形づくってきたメインの通りであり、伝統的建造物等と相まって歴史的な風情を感じさせる。

筆屋の建物（町家）の造りは、奥行きのある敷地の道路側に店舗又は作業場、その背後に居住空間、さらに中庭、奥座敷と続き、最も背後に庭がある場合もある。



P2-21 中溝通り



P2-22 かつて筆屋（筆問屋）であった建物



P2-23 当時の作業場なども保存（左の建物）

## キ その他

### 1) 伝説・伝承

本町には、菅原道真伝説、落矢伝説が伝えられている。

涙岩、ゆるぎ岩、夜泣き石に関しても、記念物（地質鉱物）としてだけではなく伝説・伝承を伴っている。

### 2) 由来のある地名

本町には、歴史的に形づくられた地名が、その由来を伴い多数残されており、『温故知新（熊野町文化財のしおり）』では、およそ10の由来のある地名が記されている。

### 3) 希有な名字

本町では、<sup>ごじゅうめん</sup>五拾免、<sup>めおといけ</sup>女夫池など幾つかの珍しい名字が継承されている。



P2-24 由来のある地名「火之原（火の原）」